

(平成27年12月25日)

## 第15回 赤松小三郎研究会のご報告

日時 : H27. 12. 15 (火) 18:30~20:00  
場所 : 東京・文京シビックセンター 26F スカイホール  
出席者 : 32名 (同窓生24名、一般8名)

### < 内 容 >

- 1 事務局より
- 2 映画「なまくら NAMAKURA ～京在日記秘録～」の上映会 (48分)

映画は、赤松小三郎暗殺の背後で繰り広げられた剣士たちの戦いを描く活劇です。信綱寺、和田宿本陣、鴻ノ巣、岩鼻、唐沢の滝・・・上田周辺の自然・名勝でロケが行われており、上田出身の参加者にとっては懐かしくもある風景の映像が展開されました。

なお上映作品は、うえだ城下町映画祭で審査員賞を受賞し、副賞として平成28年3月末までうえだ城下町映画祭事務局にてネット配信が行われております。

下記 URL からご覧ください。

<http://www.umic.jp/eigact/kekka.html>

原案やキャラクター設定、ロケ地情報について「なまくら NAMAKURA 京在日記秘録」公式 WEB ページを参照してください。

<http://namakura.jimdo.com/>



### 3 原作者・監督・主演の坂口平さん、阿部周平さん（可兒幾太郎役「後の春琳」）、スタッフの高橋ひろ子さんをお迎えしてのトークショー

上映会後にはトークショーが行われ、この映画の原作・監督・主演の坂口平さん、可兒幾太郎役の阿部周平さん、制作スタッフの高橋ひろ子さんに壇上に上がっていただき、この映画にこめた想いを熱く語っていただきました。

坂口平さんがこの作品のヒントを得たのは、上田市立博物館に展示されている小三郎の佩刀（両刃の剣になったサーベルのような珍しい刀）に刻まれた「殺活応機」という刻印だったとのこと。この言葉に小三郎が込めた意味を考える中で、脚本を書き上げ、上田の殺陣サークル眞や多くの仲間達の協力を得て自主映画制作に結実したとのことでした。

この映画は赤松小三郎の名前が出てくる初めての映画。映画は原作の一部を映像化したもの。映画には出てこないが、原作の中には赤松小三郎と中村半次郎がお互いの価値観をぶつけあう対話の場面も盛り込まれているとのこと。小三郎は薩摩に自分の暗殺計画があるのを知りつつ、最期まで「幕薩一和」を信じて死地に飛び込んでいく。半次郎も、上からの暗殺命令を受けて葛藤する姿が描かれているとのこと。

来年度の大河ドラマの「真田丸」が終了しても、その次の年には大政奉還 150 年（小三郎が暗殺されて 150 年）の節目を迎えるので、上田にはまだ赤松小三郎先生もいるぞということアピールしていきたいという抱負を語って下さいました。

赤松小三郎の門人で大垣藩士の可兒幾太郎（後の陸軍少将・可兒春琳）役の阿部周平さんは、上田真田まつりで真田幸村役を演じた役者さんです。はじめて上田に行った際に最初に訪れたのが赤松小三郎の遺髪墓のある月窓寺だったとのこと、その時からこの映画に関わることになったのは運命の糸で導かれていたようです。阿部さんは、師である小三郎を思う可兒幾太郎の想いを熱く演じています。

映画制作の余波、波及効果があちこちで出てきているそうです。それ自体がドラマか小説の材料になりそうな、数奇なエピソードがいくつか披露されました。

#### ① 小三郎の兄の芦田柔太郎の写真が発見されたこと。

上田での自主上映会の後、坂口さんのもとに「中学校PTAの廃品回収からこんな写真があった」と一枚の洋装姿の武士の写真が持ち込まれた。鑑定の結果、赤松小三郎の兄の芦田柔太郎さんではないかとのこと。坂口さんらは、その写真を、赤松小三郎の紙芝居と交換する形で、赤松小三郎記念館に収めた。

#### ② 中村半次郎（桐野利秋）の血縁者の方と交流したこと

映画の主人公が大垣藩士であることが縁で、大垣市でも上映会を開催。その上映会に

中村半次郎の血縁者の方が来てくれた。血縁者の方は映画の原作を読んで、「半次郎を単なる『人斬り』として描かずに、半次郎の心の中の葛藤を描いてくれて感謝している」と述べて下さった。

その後、中村半次郎の血縁者の方とお会いして半次郎直筆の『京在日記』を実際に手にとり見せて頂き、そのコピーを頂戴しており、上映会当日披露された。(上の写真 / 監督・脚本・主演の坂口平氏) 下の写真は『京在日記』の現物の写真。



#### 4 参加者の感想

”なまくら”なかなか意欲的な映画ですね。  
唯、音声がはっきり聞き取れずもう一つ理解できなかったのは残念でした。作者の制作意図、他お話しも聞きたかったです。

\*\*\*\*\*

スカイホールは広々としていて素敵でしたね。  
音声の調整に時間がかかりすみませんでした。  
いつもと趣向を変えての今年最後の赤松小三郎研究会、  
盛会だったと思います。  
来年も2回ぐらいはこのような企画をやっていきましょう。

\*\*\*\*\*

今日は素晴らしい企画で有意義な時間を頂戴し御礼を申し上げます。映画に感動しましたし故郷上田の歴史を深く知ろうとする方々がたくさんおられることに嬉しく誇りに思いました。研究会の益々の発展を期待して何とか赤松小三郎の名を世に知らしめて時の権力者に歴史から抹殺された賢人を陽の当たる真実の場に引っ張りだしましょう。会津の友人からも激励が届いております。  
宜しく願い申し上げます。

以上

赤松小三郎研究会 関 良基（86期）



上映会後の制作者の方々とのトークショーの場面